

東京土建諸運動の始まりの物語

1

土建の来ない日はない

たたかって日雇健保を獲得

現在、本人・家族合わせて約17万8000人が加入する東京土建国民健康保険組合（東京土建国保）にも前史があります。組合の諸先輩がどのようなたたかいを経て、東京土建国保を立ち上げたのか振り返ります。

「ケガと弁当は手前持ち」といわれた建設労働者にとつて労災保険と健康保険の適用は戦前からの切実な要求でした。東京土建は1952年4月、健康保険未適用の労働者とともに「健康保険適用獲得期成同盟」を結成しました。参加したのは東京土建をはじめとした建設労働者を中心に日雇労働者、家政婦、派出所

「ケガと弁当は手前持ち」といわれた建設労働者にとつて労災保険と健康保険の適用は戦前からの切実な要求でした。東京土建は1952年4月、健康保険未適用の労働者とともに「健康保険適用獲得期成同盟」を結成しました。参加したのは東京土建をはじめとした建設労働者を中心に日雇労働者、家政婦、派出所

「ケガと弁当は手前持ち」といわれた建設労働者にとつて労災保険と健康保険の適用は戦前からの切実な要求でした。東京土建は1952年4月、健康保険未適用の労働者とともに「健康保険適用獲得期成同盟」を結成しました。参加したのは東京土建をはじめとした建設労働者を中心に日雇労働者、家政婦、派出所

「ケガと弁当は手前持ち」といわれた建設労働者にとつて労災保険と健康保険の適用は戦前からの切実な要求でした。東京土建は1952年4月、健康保険未適用の労働者とともに「健康保険適用獲得期成同盟」を結成しました。参加したのは東京土建をはじめとした建設労働者を中心に日雇労働者、家政婦、派出所

「ケガと弁当は手前持ち」といわれた建設労働者にとつて労災保険と健康保険の適用は戦前からの切実な要求でした。東京土建は1952年4月、健康保険未適用の労働者とともに「健康保険適用獲得期成同盟」を結成しました。参加したのは東京土建をはじめとした建設労働者を中心に日雇労働者、家政婦、派出所

「ケガと弁当は手前持ち」といわれた建設労働者にとつて労災保険と健康保険の適用は戦前からの切実な要求でした。東京土建は1952年4月、健康保険未適用の労働者とともに「健康保険適用獲得期成同盟」を結成しました。参加したのは東京土建をはじめとした建設労働者を中心に日雇労働者、家政婦、派出所

「ケガと弁当は手前持ち」といわれた建設労働者にとつて労災保険と健康保険の適用は戦前からの切実な要求でした。東京土建は1952年4月、健康保険未適用の労働者とともに「健康保険適用獲得期成同盟」を結成しました。参加したのは東京土建をはじめとした建設労働者を中心に日雇労働者、家政婦、派出所

「ケガと弁当は手前持ち」といわれた建設労働者にとつて労災保険と健康保険の適用は戦前からの切実な要求でした。東京土建は1952年4月、健康保険未適用の労働者とともに「健康保険適用獲得期成同盟」を結成しました。参加したのは東京土建をはじめとした建設労働者を中心に日雇労働者、家政婦、派出所

「ケガと弁当は手前持ち」といわれた建設労働者にとつて労災保険と健康保険の適用は戦前からの切実な要求でした。東京土建は1952年4月、健康保険未適用の労働者とともに「健康保険適用獲得期成同盟」を結成しました。参加したのは東京土建をはじめとした建設労働者を中心に日雇労働者、家政婦、派出所



日雇健保擬適用廃止反対の江戸川区役所前座り込み

1970年1月、政府は前国会で廃案になった日雇健保改悪法案を第63回国会に上程する方針を決めました。東京土建は2万人集会を成功させ、全建総連もハガキ要請、署名活動を開始しました。そして国会採決直前に示された最終修正案を、5月13日の国会最終日に廃案に追い込みました。しかし政府と自民党は日雇健保改悪案を廃案に追い込んだ報復措置として、その日のうちに擬制適用を廃止する暴挙に出ました。

この知らせを聞き東京土建や全建総連は直ちに「擬制適用廃止撤回闘争」に立ち上がりました。区市役所や社会保険事務所前の座り込み、全建総連厚生省前座り込みなど、まさに血のじむようなたたかいを発展させ、マスコミでも取り上げられるなか

政治問題化させる変化を作りました。厚生省はこうしたたたかへの切り崩しとして、「国保組合の新設は認めない」方針を打ち出した。この知らせを聞き東京土建や全建総連は直ちに「擬制適用廃止撤回闘争」に立ち上がりました。区市役所や社会保険事務所前の座り込み、全建総連厚生省前座り込みなど、まさに血のじむようなたたかいを発展させ、マスコミでも取り上げられるなか

政治問題化させる変化を作りました。厚生省はこうしたたたかへの切り崩しとして、「国保組合の新設は認めない」方針を打ち出した。この知らせを聞き東京土建や全建総連は直ちに「擬制適用廃止撤回闘争」に立ち上がりました。区市役所や社会保険事務所前の座り込み、全建総連厚生省前座り込みなど、まさに血のじむようなたたかいを発展させ、マスコミでも取り上げられるなか

擬適用廃止は社会問題

国保組合新設を認めさせる

1962年8月、社会保障審議会は、「社会保障制度の総合調整に関する答申及び勧告」を行ない、国民諸階層の格差の拡大を危惧し、現存する諸制度間の財政調整と制度統合を自己負担の大幅増を前提に着手すると提案しました。当時、日雇健保は大幅な赤字を抱えて制度存続の危機にありましたが、日雇健保への国庫負担の増額要求は拒否され、増額の道が閉ざされました。1963年には大蔵省が国庫負担の減額、保険料引き上げなど改悪案を出しますが、東京土建は全都いつせい提灯デモや全建総連中央総決起大会などを成功させ、これを撤回させました。



「職人に健康保険を」と署名を訴えた

1964年3月、小林武治厚生大臣が赤字を理由にわたる日雇健保闘争の幕閉を告げるものでした。1960年代後半の健保改悪反対、日雇健保改悪・廃止反対のたたかいは1965年1月以降の保険三法を2度の廃案のうえ大幅譲歩させる、1966年の臨時医療保険審議会設置法案を廃案に追い込む、1969年の日雇健保改悪の廃案など勝利しました。1965年では練馬支部で区役所前座り込みを始め、その後、16支部が座り込みを決起、1966年では6・16都庁前集会を1万6000人（東京土建は1万2000人が参加）で成功させました。

1960年代後半の健保改悪反対、日雇健保改悪・廃止反対のたたかいは1965年1月以降の保険三法を2度の廃案のうえ大幅譲歩させる、1966年の臨時医療保険審議会設置法案を廃案に追い込む、1969年の日雇健保改悪の廃案など勝利しました。1965年では練馬支部で区役所前座り込みを始め、その後、16支部が座り込みを決起、1966年では6・16都庁前集会を1万6000人（東京土建は1万2000人が参加）で成功させました。